

平成 30 年 2 月 14 日

各 位

会 社 名 ピクセルカンパニーズ株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 吉田 弘明
(コード番号 2743 JASDAQ)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取締役副社長兼コーポレート本部長 本瀬 建
電 話 03-6731-3414

仮想通貨関連事業（マイニング事業）の経過に関するお知らせ

当社グループは、平成 29 年 12 月 22 日付にて公表した、「新たな事業（仮想通貨関連事業（マイニング事業））の開始に関するお知らせ」のとおり、仮想通貨のマイニング開始に向け準備してきておりましたが、当初導入分の ASIC の納品を受けましたので、お知らせいたします。

記

1. マイニング事業の概要

当社グループのマイニングは、電気料金が安価である寒冷地で行う予定であり、当初導入分については中華人民共和国内モンゴル自治区において、ASIC（特定用途向け集積回路）を用いたマイニングの実施を予定しております。

この度、Bitmain Technologies（以下「Bitmain 社」といいます。）が製造開発を行う当初導入分の ASIC「Antminer S9（13.5th/s）※2」の納品を受けたことから、平成 30 年 3 月上旬にマイニングを開始できる見込みとなりました。今後、当社グループの保有する ASIC は Bitmain 社が運営・サービス提供を行う世界最大級のマイニング量を誇るマイニングプール（出所：Blockchain.info）である AntPool につなぎこむことでマイニングを行うことを予定しております。

なお、今後も市場動向等を踏まえ段階的にマイニングマシンへ資金投資を行い、マイニング事業拡大を推進することを検討してまいります。

※マイニングとは、ネットワーク上に分散保存される取引台帳（ブロックチェーン）に記録される取引履歴の整合性を確保するための承認作業のことであり、最も早く計算処理が終了した人に報酬として仮想通貨（ビットコイン等）が支払われます。

※2 ASIC の概要

名称：AntminerS9（13.5th/s）

ハッシュレート：13.5th/s

ハッシュとは、あるデータを変換して得られる固定長のデータのことです。ハッシュはあるデータを一方にしか演算できないのが特徴で、ハッシュ化されたデータを元のデータに戻すことはほぼ不可能です。また元のデータを 1 文字でも変更するとハッシュ化されたデータは全く違う結果となり、元データを推測することを不可能にしています。

暗号は暗号化したデータを復号できるのに対し、ハッシュは復号できないという大きな違いがあります。

ハッシュ値を得るための関数を「ハッシュ関数」といいます。データの改竄を検知するためや、パスワードの照合、データ検索の高速化などに用いられております。ビットコインにおいてもハッシュはいたるところで使われており、特にマイニング（採掘）ではハッシュを計算する効率が最も重要であります。

ハッシュレートとは計算力の測定単位であり、hash/s（1秒間に1ハッシュの計算）という単位が使われております。一般的にはM（メガ）、G（ギガ）、T（テラ）などの接頭辞と合わせて使われ、MHsのように省略されております。当社が導入するAntminerS9（13.5th/s）は13.5TH/sであり、ハッシュレート13.5TH/sに達するという事は、1秒あたり13.5兆回ハッシュの計算を行うことができるということです。

2. 今後の見通し

本件は、本日公表いたしました「平成29年12月期決算短信〔日本基準〕（連結）の平成30年12月期の連結業績予想（平成30年1月1日～平成30年12月31日）」に含まれております。なお、マイニングで得た仮想通貨については都度売却し法定通貨に転換することにより売上を計上する見込みとなります。

以上